



【スノーケリング海中観察&アマモの種取り】

日 時：令和6年8月31日（土）
8：30～14：00

場 所：サンオーレそではま
自然環境活用センター
スタッフ：南三陸海のビジターセンター
おきなくらEELs
自然環境活用センター



「雷注意報が出てしまい、スノーケリングが中止に！」

・みんな、スノーケリングを楽しみに集合しましたが、雷注意報が出ていたため、残念ながら中止となりました。

スノーケリングは出来ませんでしたが、いつでも避難できるように注意しながら海に入って泳いだり、砂浜でスナガニ掘りをしました。隊員たちは海に入ることができみんなはしゃいでいました。海から上がると今度は、スナガニ掘りに夢中になり、一生懸命に掘っていました。スナガニを見つけた隊員は、とても喜んでいました。

スナガニは、宮城県の絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類）に指定されている希少なカニです。袖浜ビーチの砂浜にも多く生息していることが確認され、南三陸の自然の豊かさをみんなで実感しました。



スナガニ発見!!

「袖浜ビーチには何がいたの？」

海草：アマモ、タチアマモ 海藻：アカモク、イバラノリ、アラメ

動物：スナガニ、ボラ、フグ、ハスノハカシパン、ツノメガニ、ムラサキイガイ、ヒメハマトビムシ、マガキ、カイメン、クビレクロツケ、イシダタミ、アカフジツボ、シロスジフジツボ、ヒザラガイの仲間



スナガニ



ツノメガニ



タチアマモ

「志津川湾のブルーカーボン」

・海藻の森やアマモの草原は「藻場（もば）」と呼ばれます。藻場は、海の生きものたちにとって、えさを食べる場所・隠れ家・子育てを行うゆりかごとして重要な役割を果たします。また、地球温暖化の原因となるCO₂（二酸化炭素）を吸収し、貯留（ちよりゅう）する（とじこめること）「ブルーカーボン生態系」としての機能も持っています。

「アマモの種といをしたよ！」

・自然環境活用センターに戻り、志津川湾にアマモを増やすお手伝いとして、アマモの苗を作るための種の仕分け作業をしました。みんな、一生懸命に種とりに取り組んでいました。



「KHBの取材があったよ！」

・KHBの方が調査隊の活動の取材に来ました。KHBのアナウンサーと一緒に海に入り、アマモを見つけたり、スナガニ探しをしたりしました。放送日が決まりましたらご連絡します。



みんなで選別したアマモの種

【次回の活動予定】※都合により変更の可能性もあります

☆9月は、各自で環境DNAのサンプリングを行ってもらいます。

※サンプリングに必要な物は、先日お渡し、又はお送りしております。

☆10月19日（土） いぐねの里の生きもの調査と手入れ体験（おおさき生きものクラブと合同）

大崎市で、おおさき生きものクラブのみなさんと一緒に「いぐねの里の生きもの調査と手入れ体験」をします。みなさん、是非ご参加ください。

